

古代インド帝国(2)

(7)前1～後3世紀 [1 **サータヴァーハナ**]朝…ローマとの[2 **季節風**]貿易,ドラビダ人「海の道」を開く

海の道…地中海から[3 **紅海**]、アラビア海を渡ってインドに達し、さらに東南アジアから中国にいたる東西交易路。[4 **船**]による交易が行われる。[5 **ギリシア**]系商人が活動しはじめる[6 **1**]世紀ごろからさかんになる。交易の中心地は南インド([7 **サータヴァーハナ**]朝など)。

東南アジアの[8 **マラッカ**]海峡(スマトラ島の[9 **シュリーヴィジャヤ**])やインドシナ南部の[10 **扶南**] [11 **チャンパー**]などが海上貿易で繁栄した。

1世紀後半、エジプト在住のギリシア人が書いた[12 **エリュトゥラー海案内記**]はこの頃の紅海・アラビア海・インド洋の様子をよく描いている。 **紅海**

(8)4世紀 [13 **グプタ**]朝 チャンドラグプタ1世建国、[14 **チャンドラグプタ二世**](超日王)のとき全盛

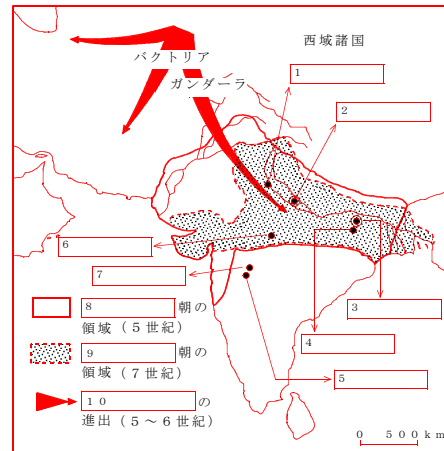
[15 **ヒンドゥー**]教の発展=バラモン教+民間信仰・慣習

インド古典文化の全盛期=[16 **サンスクリット**]文字の使用 (←バラモンの使用する言葉)

二大叙事詩「マハーバーラタ」「ラーマーヤナ」完成
カーリダーサ「[17 **シャクンタラー**」(戯曲)

仏教文化=グプタ様式([18 **アジャンター**])の石窟寺院など、
法隆寺の壁面に酷似

[19 **ナーランダー**]僧院(研究機関)



グプタ朝とヴァルダナ朝の領域

ヒンドゥー教…[20 **バラモン**]教に民間の信仰や慣習を吸収して成立したインドの民族宗教。[21 **シヴァ**]や[22 **ビシュヌ**]などの神々を信仰する多神教。[23 **ヴァルナ(カスト)**]を重視する傾向が強い。生活指導書として[24 **マヌの法典**]などがある。

4世紀、チャンドラグプタ1世が北インドに[25 **グプタ**]朝を樹立した。[26 **アジャンター**]の石窟寺院が造られるなど仏教美術が発展、[27 **ナーランダー**]僧院を中心に教理研究がすすみ中国(東晋)の法顕も留学してきた。しかし大衆からの遊離の傾がつよまり、かわって[28 **バラモン**]教と民間信仰が融合した[29 **ヒンドゥー**]教が発展した。この時代はインド古代文化の黄金時代であり、サンスクリット文学の傑作といわれる二大叙事詩「[30 **マハーバーラタ**」」「[31 **ラーマーヤナ**」がこの時期に完成した。

(9)7世紀前半[32 **ヴァルダナ**]朝 [33 **ハルシャ(=ヴァルダナ)**](戒日王) 仏教を保護

後7世紀、北インドにおいて古代の最後をいどころ統一王国が[34 **ハルシャヴァルダナ**]が建てたヴァ

ルダナ朝である。この国には中国の唐から[35 **玄奘**]や義浄らが仏教を学ぶために留学してきた。しかし仏教はこれ以降、インドではしだいに消滅し、インドも分裂状態がつづく。

(10)7世紀後半～ 地方政権の分裂(ラージプト時代)

仏教の衰退→消滅、ヒンドゥー教の隆盛(6世紀以降の[36 **バクティ**]運動の高まり)

熱烈なシヴァ・ビシュヌ信仰、仏教・ジャイナ教攻撃

中国からの留学僧

グプタ朝 東晋の[37 **法顕**](陸→海)がナーランダー僧院に、「[38 **仏国記**』」

ヴァルダナ朝 唐の[39 **玄奘**](陸→陸)「[40 **大唐西域記**」→「西遊記」のモデル

7世紀末 [41 **義浄**](海→海)「[42 **南海寄帰内法伝**」、シュリービジャヤ王国に寄港

インドへのイスラーム流入とムガル帝国

(1)7世紀後半以降～ 地方政権の分裂(ラージプト時代) 仏教の消滅、ヒンドゥー教の隆盛

・アフガニスタンからイスラーム勢力の侵入=[43 **ガズナ**]朝、[44 **ゴール**]朝

10世紀後半～トルコ系 12世紀後半～イラン系

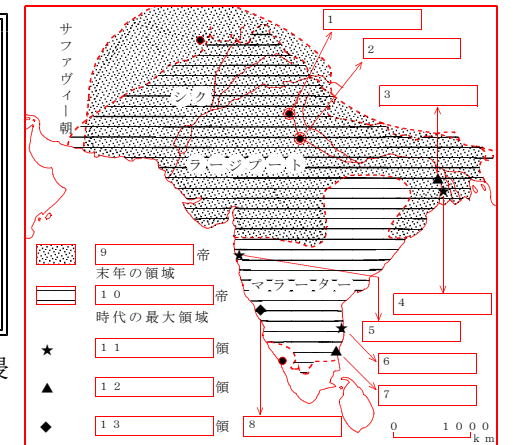
→[45 **奴隷**]王朝成立、以後[46 **デリー=スルタン**]朝つづく

13世紀初[47 **アイバク**]が建国 奴隷→ハルジー→トゥグルク→サイイド→ロディー

イスラームの支配…仏教の拠点の破壊、ヒンドゥー寺院の資材の流用、イスラームの強要はない

・イスラーム[48 **神秘**]主義教団(スーフィー)によるイスラーム教布教の広がり(←バクティとの類似)

インドでは7世紀末以降、[49 **ラージプト**]時代とよばれる混乱が続いていた。そうしたなか11世紀初めアフガニスタンの[50 **ガズナ**]朝が西北インドのパンジャブ地方に侵入して以降、イスラーム勢力の侵入が続いた。そして1206年成立した[51 **奴隷**]王朝以後、デリーを中心にイスラーム王国がつづいた。これを[52 **デリー=スルタン**]朝とよぶ。他方、インドには[53 **イスラーム神秘**]主義が広がり、民衆へのイスラームの布教が進んでいった



ムガル帝国の領域

(3)1526 ティムールの子孫バーブル、アフガニスタンから侵入[54 **ムガル**]帝国を建てる

首都[55 **デリー**]

16世紀後半[56 **アクバル**]大帝→[57 **ヒンドゥー**]教徒との融合をはかる=ジズヤの廃止など

中央集権的統治体制をかためる、首都は[58 **アグラ**]へ